学生部門

最優秀賞

矢澤 青大
東京都立大学大学院

【作品名】

四季を旅する巣まい

-燕から学ぶ気候によって変化する暮らし-

01 敷地:静岡県浜松市引佐白岩

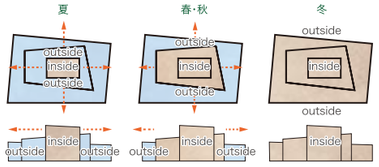
敷地は、静岡県浜松市引佐白岩。都市から離れ周囲をみかん畑に囲まれ起伏を持つ土地である。住民は、みかん農家を営む夫婦であり農具等を置く納屋が求められる。

02 燕から学ぶ快適な住処

渡り鳥である燕は、快適な住処を本能で知っている。燕は、春と共に日本に訪れ、風通しの良い軒先などの中間領域に周辺から採集した泥と草で巣を作る。燕の巣作りを参考にし、外部と内部を持つ中間領域について再考することで、快適性を担保しつつ、自然との共生を可能にする住まいを作れるのではないだろうか。
燕は、季節に応じて住処を変えることができる。しかし人間は、何年もの間同じ住処で暮らしていく。そこで四季の気候に応じて間取りを変え、中間領域が変化していく住処を設計する。

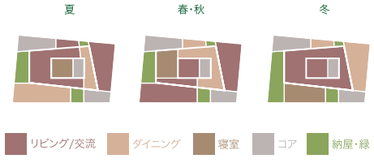
03 三層の平面構成で中間領域を作り出す

平面を三層の壁によって間取りを構成し、層を角度を振った台形にする。角度をつけたことにより立ち上がる空間に大小が生まれ、多様な性質を持った居場所ができあがる。
平面構成を三層にしたことで建具の開け閉めによって壁と壁の間に内部と外部の両方の特性を持つ中間領域が拡大縮小する。住人は拡大縮小する中間領域で季節の変化を全身で享受する。
燕が巣を作る場所を迷ってしまう、そんな空間が出来上がる。



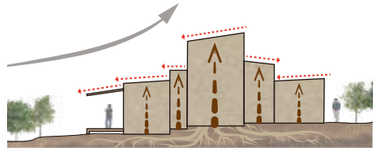
04 季節による居場所の変化

夏は、外側2つの層を開放し涼しげな空間が拡張される。春・秋には内部と外部の空間を等しく楽しむ。冬になると三層目の建具を閉じ、住宅全体が温かい空間に包まれる。冬はみかんの収穫の時期であり、納屋は拡張され、燕がみかん畑を飛び回るころ再び春がやってくる。



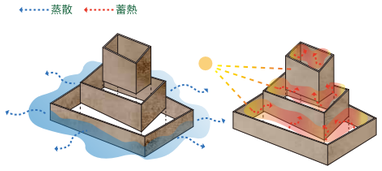
05 大地に根を張る建築

ボリュームを地形に沿って立ち上げ、屋根勾配の操作によって有機的なリズムを生み出す。敷地の高低差や石、木、土などの土地の特性を活かすことで大地から立ち上がり、根を張ったような周囲に溶け込む建築となり時間と共に新しい風景として佇む。燕は、来春もこの家に巣を作る。



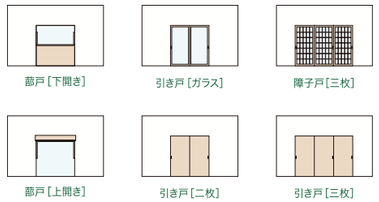
06 微気候を作り出し自然に帰る土壁

燕は、現地で調達した泥や枯草を使って巣を作る。役目を終えた巣は再利用されるか、壊れた際には自然に帰る。敷地の地名にもなっている白岩の土と藁すさで日本の伝統的な土壁を制作する。土壁の三層によるレイヤーが蓄熱、蒸散することで住居内に快適な微気候を作り出す。

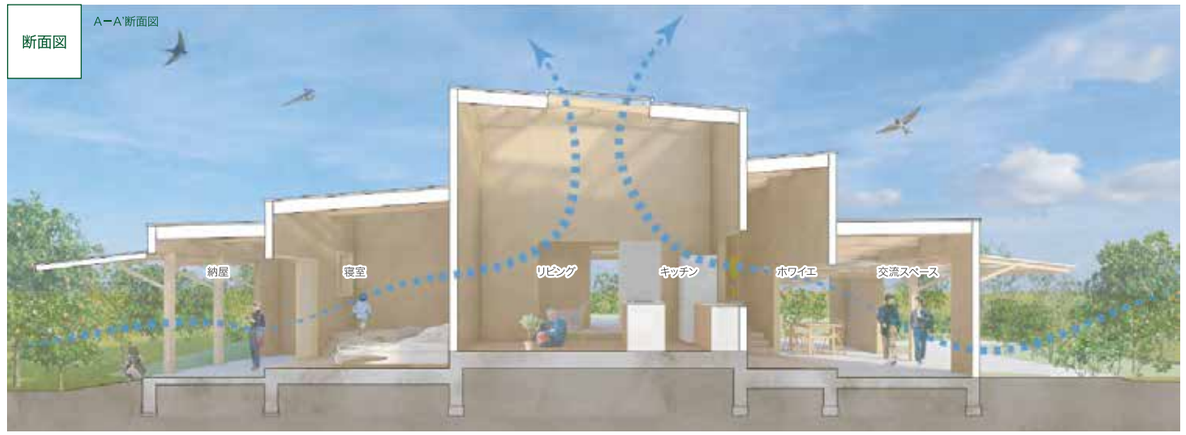


07 環境を緩やかに繋ぐ建具

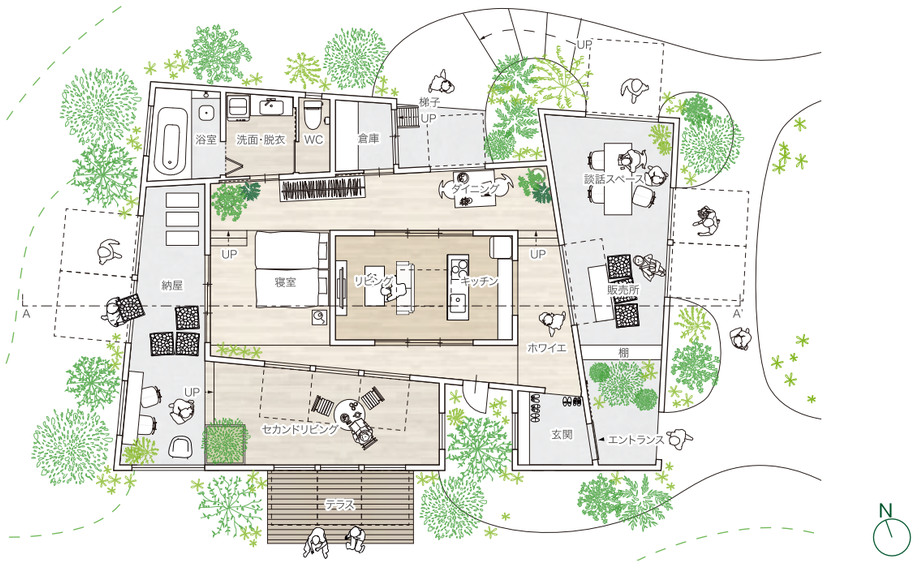
建具はこの住居の間取りを動的な物に変える役割を持ち、同時に外部と内部をゆるやかに繋ぐ境界線となる。よって蔀戸や開き戸など開放性の高い建具を多く使用した。



断面図



平面図



セカンドリビングからテラスを見る。畑と連続的に繋がる感覚を持つ。

納屋に暖かな光が入り込む。よく使う農具や収穫物も収納される。

寝室とダイニングを見る。土に包まれ、ゆるやかな時間が流れる。

談話スペースに光が入り込む。燕が住宅内を飛ぶような開放的な空間。

設計コンセプト

燕は、春と共に日本に訪れる。
渡り鳥である燕は、快適な居場所を本能で知っている。燕は、現地調達した泥と草を使って、住宅の風通しの良い軒先などに巣を作る。燕の巣作りを参考に、内部と外部、両方の特徴を持つ中間領域について再考することで、快適性を担保しつつ、自然環境との共生を可能にする豊かな住処を作れるのではないだろうか。
そこで私は、自然環境との接点となる中間領域に着目し、四季の変化に応じて間取りを変え、中間領域が変化していく住処を設計する。
敷地は、静岡県浜松市引佐白岩のみかん畑。地名の通り白岩という地層からなる自然豊かな地域である。この地に建つこの住宅は、建材に白岩でとれた土、木材、竹を燕と同じように現地調達し、伝統的な竹小舞土壁で制作される。間取りを三層の土壁によって構成し、角度を振った台形にすることで、空間に大小が生まれ、多様な居場所が出来上がった。三層の壁に備え付けられた建具の開け閉めで壁と壁の間の中間領域が拡大縮小し、住民は季節の変化を全身で享受する。
土壁による三層のレイヤーは蓄熱・蒸散することで住居内に微気候を作り出し、快適な居場所でありながら可変性のある住処となることを許容する。夏には、外側二つの層を開放し涼しげな空間が拡張され、春・秋には内部と外部の空間を等しく楽しむ。冬には三層目の建具を閉じ、住宅全体が温かな空間に包まれ、燕がみかん畑を飛び回るころ再び春がやってくる。

審査委員講評

間取りが変わり、住み手が移動しながら暮らすという斬新な設計プランは、一見、現実性を疑ってしまいました。しかし、それが季節の移り変わりを住みながらに感じさせ、建具を巧みに使い可変する半屋外の空間で、人間の住みこなす能力を引き出す温故知新のものだと正当性を帯びてきます。静岡県のみかん農家を想定したプランですが、敷地の場所を問わず広く応用できる普遍性を感じました。